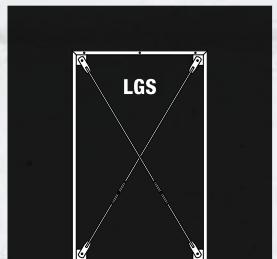




海に沈む夕日を眺めるため  
に作られたこのモーテルの  
最大の特徴の「ルーフデッキ」。  
ニッポンの西の端を実感できる場所です。鉄とガラス、そしてそこに映る純粹な夕日のコントラストは、  
バイク野郎の魂を揺さぶります。  
道路側からの建物フォルムも印象的。Rスパンの銀色の金属光沢とリブ付きの曲面が、一度見たら忘れない視認性も表現します。



**X**  
**66**  
PANELS

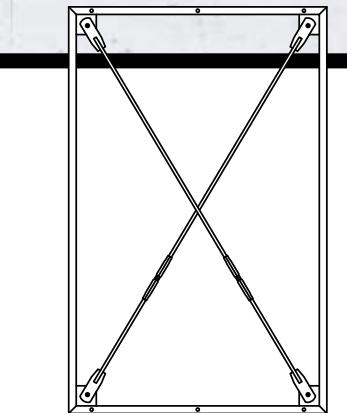
[ 33枚×2部屋 ]

II

### Theme

## 水平線に沈む夕日を見るための 海辺のモーターホテル

バイクツーリングご用達になつてもらうべく、  
今回プランニングした高床式LGSのモーターホテル。  
ストレスの多い日常から解放された本当の自由を  
提案するケーススタディーです。



日本中のバイクツーリングマニアの“漂泊の魂”  
を刺激してやまない、海岸にそり立つ高床式  
LGSの外観。たとえば気候のいい季節だけでなく、  
荒れた冬の日本海を眺めに来るツアーもいいな  
と感じさせるところがLGSのいいところです。  
これぞニッポンのミッドセンチュリー。

INFORMATION  
**LDKinc.**

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc.。建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

代表:玉田敦士  
WEB: [www.ldk.co.jp](http://www.ldk.co.jp)  
TEL: 03-6228-4933

DAYTONA HOUSE OFFICIAL HP  
[www.daytona-house.com](http://www.daytona-house.com)

夕日が美しい。そんなロケーションです。建物は2棟連棟で計画します。1棟当たりは100m。この平屋の100mが高床式LGSで建築する場合の基本単位だと考えてください。プランはいたってシンプルです。1FのLDKとベッドスペース。その上は曲面屋根Rスパンを使った吹き抜けです。吹き抜けから階段を上がると海に面したルーフデッキがあります。ここで旅をするバイク仲間と楽しむ本格的なBBQは文字通り、「言うこと無し」まさに遊民の境地でしょう。

バイクで風を切りながらソーリングし、海に奇跡のように張り出したウッドデッキで西の空を見ながら肉を食らう。そして鉄の素材感が少しの空間で眠る。このような、ワイルドな旅、をテーマとしたデイトナハウスの施設を統合計画中です。土地に縛り付けられる日常から、移動というイメージを取り入れた自由な生活の幸せ。フリーダム。が、今後、数字で渡つてお伝えする連続企画のテーマなのです。映画「イージーライダー」の中でジャック・ニコルソンが最初に語った自由が今蘇るのです。

映画『イージーライダー』の冒頭は、ピーター・フォンダとデニス・ホーパーの二人のライダーがモーターへの宿泊を断られるところから始まります。世の中は今でも、移動をしながら自由な生活を満喫する人生に対して冷たい側面があります。それが証拠にニッポンには良質なモーターホテル／モーターが非常に少ないのが現実です。しかし今後、ストレスがますます多くなる現代社会で、土地に縛り付けられること脱出した、遊動民的なライフスタイルに関心が高まつてくることが考えられます。そこで今回は、実際に島根県のとある海岸の緩やかな傾斜地に計画中の高床式モーターホテルをご紹介します。この建物は、まさに、遊民ライダーのためのモーターホテルなのです。

建築場所は、ただ水平線とそこに沈む夕日がある場所。とにかくその

### What's Daytona House?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたバーツは、「フレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。“柱”と“梁”と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGSパネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、マンションなどの様々な建築を可能とする全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGSパネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かりやすく、パワードボイルドな空間のテストを持ち味です。